令和７年度　大妻女子大学　児童臨床研究センター

特別支援教育講座　受講生募集要項

1. プログラムの趣旨

「特別支援教育」は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものとされています。

大妻女子大学児童臨床研究センターでは、今年度も専門性の向上のため、「特別支援教育に対して自らの考えを深める・広げる」をテーマに、さまざまな観点から講義・演習を行います。特別支援教育に携わる、また携わりたいと考えている方々にとっては、ご自身の興味に向き合い、かつ自らの実践を省みる機会となると思われます。

つきましては、以下の通り、受講生の募集を行いますので、ご関心がおありの方は、ぜひご応募ください。

2. 日程と会場

令和 7 年 8 月 23 日（土）、令和 7 年 9 月 20 日（土）、令和 7 年 10 月 25 日（土）
令和 7 年 11 月 15 日（土）、令和 7 年 12 月 13 日（土）、　　5 日間 10 講座

大妻女子大学（千代田キャンパス）

３．プログラムの内容　別紙参照

４．受講料（資料代込）

5,000 円（本学 3，4 年生は 3,000 円）

５．受講対象

・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の先生
・特別支援教育に参加している支援員や補助員の方
・特別支援教育に関心があり、基本的な知識及び支援方法を学びたい方
・実習を経験した本学 3,4 年生

６．募集人数

計 30 名　（定員になり次第、ホームページでお知らせします）

７．募集期間

令和７年８月８日（金）締め切り

８．申込方法

以下の手順でご応募ください。

（１）「特別支援教育講座　申込みフォーム」に必要事項を入力の上、お申込みください。
（２）外部の方は、申し込みが確認された後に「受講料振込先メール」をお送りいたします。「受講料振込先メール」に記載された振込先に、指定期日までに受講料をお振込み下さい。
（３）在学生は、7 月 15 日（火）までに申込み登録を完了し、7 月 22 日（火）～25 日（金）の期間にパピルスメイトにて受講料をお振込みください。

注）応募いただいた際のメールアドレスに“返信”をします。上記メールアドレスからの受信ができるよう、メールの受信設定を必ずご確認下さい。よろしくお願いいたします。

（４） 指定期間内に振込が完了された方に「受講決定通知」をメールにてお送りし、受講生として登録いたします。
（５） 受講料ご入金後のキャンセルはいたしかねます。

９．申込先

URL https://forms.gle/BYDheFVMQt8JszvL9

QR コードはこちらから

１０．応募先・問い合わせ

大妻女子大学家政学部 児童臨床研究センター
〒102-8357　東京都千代田区三番町 12
TEL：03-5275-6129　FAX：03-5275-5252　／　E-Mail　：　jirinken@ml.otsuma.ac.jp
月～金：10：00～16：30

テーマと概要

実施日：8 月 23 日（高橋ゆう子）

テーマ：「特別な支援を要する」事態の理解と情緒的応答的関係の構築
概要：子どもや子どもをめぐる事態の理解のありようは、さまざまです。多様性やインクルーシブという視点が求められているからこそ、子ども（相手）ではなく、自身の思いや考え方（大事にしたいこと）も見直してみる、そのような機会にしたいと考えています。そして、子どもを導く人、導き手（ガイド）となるために、乳幼児期からの情緒的応答的関係の構築のプロセスと重要性について共有したいと思います。

実施日：8 月 23 日（宮崎豊）

テーマ： その子らしさと“いま、この時”を大切にする保育実践を考える
―インクルーシブなまなざしをもってー
概要：子どもたちは、“いま、この時”を精いっぱい生き、学んでいます。ひとりひとりの子どもの“いま”の生活や学びを支えるために、保育者にできることをともに考えてみませんか。特別な配慮が必要な子どもや障がいのある子どもの保育では、つい先を見通して援助の計画を立てがちです。しかし、子どもにとって何より大切なのは、“いま“が安心でき、充実していること。その経験が、次の一歩を支えるのではないでしょうか。その経験を支えるインクルーシブな保育を進めるには、保育者自身が“まなざし”を問い直し、変わっていくことが求められます。インクルーシブなまなざしとは何か、それに基づく援助とはどのようなものか、事例を挙げながらともに考えましょう。

実施日：9 月 20 日（吉田明子）

テーマ： 深刻な状況の中で支援を届けるには ～相談がつながる、その一歩目～
概要：子どもの育ちや生活をめぐり、学校での不適応、家庭内の混乱、福祉的な支援の不在など、複合的で深刻な問題を抱える家庭が増えています。そのような状況の中で、「誰に」「どのように」相談し、「何を」伝えるかは、保護者にとっても支援者にとっても非常に大きな課題です。本講座では、保護者支援・相談支援の現場で実際に起きた事例を紹介しながら、支援がつながりにくい背景や、そこからどう関係を築いていったのか、そのプロセスを丁寧にたどっていきます。特に、「伝え方」「タイミング」「支援者の姿勢」など、相談が成立するための具体的な工夫について解説し、教育・福祉・家庭それぞれの立場から「できること」「避けたほうがよいこと」を明らかにします。困難な状況にある家庭と、支援者・教育機関・行政がどのように手を携えられるのか、相談の“その一歩目”をともに考える時間にできればと願っています。

実施日：9 月 20 日（加藤奈保美）

テーマ： 乳幼児期の育ちにみるからだとこころ
概要： 保育や教育のなかで子どもの心模様や、その子の身の処し方（がんばり方）が姿勢や動作に表現されていると感じることはあるのではないでしょうか。子どもたちが表現する（訴える）さまざまな行動の背景にみられる気持ちを理解したり、支援を考えるうえで「からだ」の視点を組み入れることにより、その子をより理解することにつながるかもしれません。いくつかの相談事例をもとに、皆さんといっしょに考える時間になればと思っています。

実施日：10 月 25 日（大岩香代子）

テーマ： 発達が気になる子どもの理解と支援～幼児期の支援から
概要： 幼児期から成人まで、いろいろなライフステージの支援に関わってきた中で、同じような障害特性を持っていても、人との関係による育ち方、経験によって、その後の困難さや生きにくさが大きく変わる、という事例を多く見てきています。周囲とのミスマッチな関わりの積み重ねの中で、激しい行動障害を引き起こし不適応な状態に追い込まれてしまうケースも少なくありません。ではその人らしくより良く発達成長し、幸せになっていくにはどういう支援が必要なのか、肝心なことは何かなのか。今回は、幼児期の支援の実際から考えていきたいと思います。

実施日：10 月 25 日（関根衣都美）（加藤裕美子）

テーマ： 多様な子どもたちが共に育つ園・学校づくり
概要：園や学校では、家庭環境、障害、性格、発達の特性など、多様な背景をもつ子どもたちが共に生活しています。すべての子ども達が安心して自分らしく学び育つためには、大人のまなざしや環境づくり、教育のあり方が大きな鍵となります。本講座では、多様な子どもたちが排除されることなく、お互いに理解し支え合いながら成長する環境をつくるための視点と実践についてお話します。

実施日：11 月 15 日（若井広太郎）

テーマ： 幼稚園や小中学校における気になる子の理解と支援
概要： 幼稚園や小中学校に在籍している気になる子どもの理解と支援について一緒に考えてみませんか。具体的な体験活動や支援方法の紹介などを通して、就学前、学齢期における多様な子どもたちの学びをチームでどのように支えるかを考えます。教育現場で子どもたちに関わっておられる幼稚園、小中学校の先生に加えて、さまざまなお立場の方にご参加をいただけましたら嬉しいです。

実施日：11 月 15 日（鳥海順子）

テーマ：特別支援教育の理解と合理的配慮
概要： 我が国で特別支援教育が始まって既に 18 年が経ちました。特別支援教育は、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システム構築することを目指しています。昨年 4 月 1 日からは公的機関だけでなく民間事業者も合理的配慮の提供が義務になりました。本講座では、あらためて特別支援教育の理念や合理的配慮に関する基礎的事項について確認し、今後、共生社会を実現するために、保育や教育には何が求められているのかについて考えたいと思います。

実施日：12 月 13 日（綿貫愛子）

テーマ： 当事者と考える！神経発達症の理解と支援
概要： 本講座は、自閉スペクトラム症など神経発達症のある成人であり、心理職として巡回相談に従事する講師が、対話と協働を通じて、参加者と教育や支援のあり方をともに考える場です。講師の話を一方的に聞くだけではなく、参加者が日々の実践や経験のなかで抱えている思いや疑問を率直にうかがい、ともに考える時間を大切にします。一人ひとりのウェルビーイングに向けて、どのような支援のあり方や環境づくりが求められるのかを探っていきます。

実施日：12 月 13 日（高橋ゆう子）

テーマ： 特別支援教育における対話の活用
概要： ここでは、フィンランドで開発された早期対話について紹介し、その活用について提案します。まず、子どもの声に耳を傾けること、また、子どもの育ちを支えるために大人同士がつながることの重要性について事例を踏まえてお話します。そして、ワークの体験を通して、対話において重要なポイントとなる他者性の尊重について、受講者のみなさんと考えてみたいと思います。

令和７年度　　特別支援教育講座プログラム

回	講義日	時間	テーマ	講師	場所
1	８月 23 日（土）	13:00～14:30	「特別な支援を要する」事態の理解と情緒的応答的関係の構築	大妻女子大学 高橋　ゆう子	千代田キャンパス本館Ｆ棟 744
2		14:40～16:10	その子らしさと“いま、この時”を大切にする保育実践を考える ～インクルーシブなまなざしをもって～	玉川大学 教授　宮崎　豊	
3	9 月 20 日（土）	13:00～14:30	深刻な状況の中で支援を届けるには ～相談がつながる、その一歩目～	NPO 法人 CASE JAPAN 代表　吉田　明子	
4		14:40～16:10	乳幼児期の育ちにみるからだとこころ	東海大学 非常勤講師　加藤　奈保美	
5	10 月 25 日（土）	13:00～14:30	発達が気になる子どもの理解と支援 ～幼児期の支援から	社会法人　嬉泉　おおらか学園 園長　大岩　香代子	
6		14:40～16:10	多様な子どもたちが共に育つ園・学校づくり	けやきわかば保育園 園長　関根　衣都美 大妻女子大学　児童臨床研究センター 加藤　裕美子	
7	11 月 15 日（土）	13:00～14:30	幼稚園や小中学校における気になる子の理解と支援	東京家政大学 講師　若井　広太郎	A 棟 553
8		14:40～16:10	特別支援教育の理解と合理的配慮	大妻女子大学人間生活文化研究所 特別研究員　鳥海　順子	
9	12 月 13 日（土）	13:00～14:30	当事者と考える！神経発達症の理解と支援	NPO 法人 東京都自閉症協会 役員　綿貫　愛子	A 棟 157
10		14:40～16:10	特別支援教育における対話の活用	大妻女子大学 高橋　ゆう子	